

小学部「国語」（こくご）学習指導案

1. 日時 令和7年9月4日（木） 第2時限（10:00～10:40）

2. 場所 小学部第2学年 1組教室

3. 学部・学年・組 小学部 第2学年 ハンバーガーグループ 6人

4. 単元（題材）名 「釣って作ろう ひらがなあそび」

5. 単元（題材）目標

- ・簡単な単語や日常生活でよく使われるひらがなを、読むことができるようにする。【知識及び技能】
- ・一文字ずつに注目し、文字を組み合わせて語句をつくることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ひらがなに親しみ、身の回りの事物や事象などを文字で表そうとする意欲を育てる。【学びに向かう力、人間性等】

6. 児童観 【略】

7. 教材観

本グループでは、これまで大型絵本による読み聞かせと音読や、自分の名前、動物や食べ物（2～5文字）の単語を1文字ずつ並び替える活動を行ってきた。回を重ねるごとに物語や文字に児童が親しみをもち、1文字ずつ文字を見て読む児童や、台詞を覚えて読む児童、教員と一緒に1文字ずつ読む児童などがいた。単語の並び替えでは、ひらがなを組み合わせることで、児童が文字への理解を深めたり言葉で表すことの意欲を高めたりすることができるよう、身近な言葉（名前、動物、果物、野菜など）を題材にして取り組んだ。見本やイラストを用意し、言葉の意味と一致づけることで、1文字ずつ見比べながら、全ての児童が簡単な単語を正しく並び替えることができた。

本単元では、前時で既に行った「文字カードを1文字ずつ釣りあげ、並び替えて単語（2～5文字）をつくる」という活動を発展させ、「文字カードを1文字ずつ釣りあげ、友だちと並び替えて単語（3～6文字）をつくる」活動を行う。まず中身が見えない箱の中からイラストカードを1枚取る。選んだイラストを見て、たらいの中に散りばめられた文字カードから答えとなる文字を一文字ずつ探して釣りあげ、友だちと並び替えて単語をつくる手順にする。本単元で取り扱う単語の題材として「動物」「食べ物（料理）」「予定（時間割）」の3つがある。文字数は5文字以上のものを積極的に設定したいが、いずれも児童にとって身近で親しみやすいものを選ぶようにする。そのため「動物」は、5文字未満のものも多く含まれるが、児童が苦手とする濁音、長音が含まれているもの（ぱんだ、かんがるーなど）を選び、文字への理解を深めることができるようにする。「食べ物」は果物や野菜の食材ではなく、料理（えびふらい、かれーらいすなど）を題材とする。文字数を増やし活動量を確保するとともに、濁音、長音、促音、拗音も学べるようにする。「予定（時間割）」は、普段から興味関心がある児童が多いため、学習への意欲が期待できる。また日常でよく目にする言葉のため、課題として取り組むことで文字への理解を深め、日常生活の中に生かせることも期待できる。

活動を行ううえで、児童が文字を釣りあげやすいよう、釣り竿の紐の長さ、接着部分となるマグネットの大きさに配慮する。また期待感に繋げるため、問いとなるイラストカードが入った箱は外から見えないようにし、手さぐりで引き当てるようにする。探す場所となるたらいは2か所に分け、一人

当たりの活動量の確保に繋げていく。また、題となるイラスト（動物、食べ物、予定）全てが描かれた「メニュー表」を準備する。必要に応じて、児童の学習意欲の向上を図ったり、友だちとのやりとりのツールとして活用したりする。

8. 指導観

教室配置は、ホワイトボード側に児童の座席を並べ、座席の前にたらいを2つ設置する。活動はペアで順番に行っていくため、教員は児童に、他の友だちが活動しているときは注目するよう指導し、内容の理解を促す。解答はホワイトボードに貼ってそのまま残しておき、全体への復唱や振り返りに活用する。ただし、順番が来た時や活動中など、こちらが意図しない場面でそちらに注意がいく場合は、解答の位置を動かしたり必要な箇所に注目を促したりと配慮を行う。また前述のように、授業時間内に、児童が集中力を保つことが難しい場面が予想される。活動の中で、取り組むテーマを変えて展開していったり、児童が「楽しい！」「間違えてもいいからやりたい！」と思えるような明るい雰囲気づくりを心掛けたりして、児童の集中や意欲を保てるようにしたい。また授業の流れや活動の約束事、ペアリングは電子黒板にて提示し、授業内容の理解や見通しに繋げる。

文字から単語への理解を促すために、文字カードを1つずつ釣りあげ、友だちと並び替えて単語を完成させる手順の中で「たりない文字はなにか」を考えるきっかけとする。A²〔支援のための発達アセスメント〕における領域「理解言語（聞く）」が3段階の児童には「あとなにがたりない？」と言葉かけで発問し、考えるよう指導する。1段階の児童には、見本の文字に注目するよう促し、照らし合わせて考えるよう指導する。児童のペアリングは学習への理解や意欲、児童同士の関係性を考慮し、児童同士でやりとりすることが期待できる組み合わせにする。「対人関係」が3段階の児童には、自ら友だちに働きかけるよう促し、2段階の児童には教員が間に入り、やりとりを促す。1段階の児童は3段階の児童と組むよう設定し、友だちからの働きかけに気付けるような言葉かけを行う。またこの1段階の児童は、「情動」「注意・多動・衝動」の部分にも課題があるため、友だちとのやりとりを通して、活動への意欲的な参加を促していきたい。またメニュー表を活用し、活動への見通しや興味を引き付けるとともに、ペアの友だちとのやりとりのきっかけとしていきたい。ただし、メニュー表に注意が向き、友だちの活動に注目ができなくなることも考えられるため、提示するタイミングには配慮をする。

また文字への理解に差があるため、答えとなる文字（見本）はイラストと別で用意しておき、必要に応じて個別で提示したり、たらいの中の文字カードを制限して選択肢を減らしたりして支援する。またペアの友だちが困っている際は、一緒に見本を見るような場を設定し、協力して答えを導けるような指導を行っていく。

全ての児童が問題に取り組めるような仕掛けとして、単語に対する文字数は2つのたらいに均等に分け、自分が釣りあげて良いたらいは1つのみとする。これにより児童のどちらか片方だけが文字を探して釣りあげることがないようにする。

T2の教員には、「理解言語（聞く）」に課題のある児童2人に対して個別の支援を促すとともに、実態に合わせて個々のねらいを何とするかの共通理解を図り、連携をしていく。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 自分の名前や食べ物、動物など、簡単な単語を読むことができる。	① イラストや見本を見て、ひらがなを1文字ずつ並び替えることができる。	① イラストや見本の文字を見て、読もうとしたりひらがなで表そうとしたりしている。
② 見本の文字に注目して、文字を並び替えて一致させることができる。	② 見本と見比べて、1文字ずつ並び替えようとしたり書こうとしたりしている。	② 友だちとのやりとりを通して、ひらがなで表そうとしている。 ③ 友だちと一緒に単語を並び替える中で、必要な文字を探そうとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全7時間、本時は第4時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
第一次	1 2	- イラストを選ぼう。 - 簡単な単語（2から5文字）をつくろう。 - 単語を読もう。	- 複数の選択肢の中から好きなイラストを一つ選ぶ。 - 一人ずつ順番に、文字カードを釣りあげ、1文字ずつ並び替えて簡単な単語をつくる。 - できた単語を全員で1文字ずつゆっくり読みあげる。	- 児童が意欲をもって活動に取り組めるよう、動物や食べ物など、馴染みのあるイラストを用意する。 - 必要に応じて、見本の文字と見比べるよう促しながら、並べることができるようにする。 - 必要に応じて、たらいの中の文字カードを制限して選択肢を減らし、その中から答えとなる文字が探せるようにする。 - 教員の口形に注目するよう促し、1文字ずつゆっくりと発音する。読む際には1文字ずつ指さしていき、文字と音が一致できるようにする。	A① A② B① C①

第 二 次	3 4 5	- 音の数だけ手を鳴らそう。 - 動物や食べ物、予定カードなど、友だちと協力して単語（3～6文字）をつくろう。 - 単語を読もう。	- 題となるイラストを見て、文字の数だけ手を叩いて鳴らす。 - 文字カードを釣りあげ、1文字ずつ並び替えて、ペアの友だちと一緒に単語をつくる。 - できた単語を全員で1文字ずつゆっくり読みあげる。	- 活動に取り組む前に、文字数を確認する。その数だけ手を叩くよう促し、文字数が把握できるようにする。 - 自分のたらいの中から文字を探して釣るよう促し、既にその中に解答が見当たらなかったら、友だちのたらいの中から一緒に探すよう促す。 - 必要に応じて見本の文字を個別で提示する。 - 教員の口形に注目するよう促し、1文字ずつゆっくりと発音する。読む際には1文字ずつ指さしていき、文字と音が一致できるようにする。	A① B① C② C③
	6 7	- 動物や食べ物、予定カードなど、友だちと一緒に単語（3～6文字）をつくろう。 - ひらがなを書いてみよう。	- ペアの友だちと相談し、箱の中からイラストを取る係、好きな釣竿とたらいを選ぶ係に分かれる。 - 文字カードを釣りあげ、1文字ずつ並び替えて、ペアの友だちと一緒に単語をつくる。 - 書きたい単語をホワイトボードの中から選び、見本を見ながら書く。	- 教員が間に入り、児童間でやりとりができるよう促す。 - 自分のたらいの中から文字を探して釣るよう促し、既にその中に解答が見当たらなかったら、友だちのたらいの中から一緒に探すよう促す。 - 必要に応じて見本の文字を個別で提示する。 - 必要に応じて、教員がマーカーで見本を書き、その上をなぞることができるようにする。	A① B② C② C③

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 文字を並び替えて、友だちと一緒に一つの単語をつくることができるようにする。
- 課題を通して、友だちとのやりとりができるようにする。

(2) 本時の評価規準

- イラストや見本を見て、ひらがなを1文字ずつ並び替えることができる。
- 友だちとのやりとりを通して、ひらがなを表そうとしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

電子黒板、タブレット端末、イラストカード、ひらがなカード、たらい、釣竿、箱、メニュー表

(4) 児童の実態と本時の目標 【略】

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準
10分 導 入	○集合 ・ホワイトボードの前に椅子と机を並べる。 ○挨拶 ・前に出て、挨拶をする。 ○学習活動の確認 ・本時の流れ、活動の内容、約束事、ペアを確認する。	・授業に集中しやすい環境で学習に取り組める児童の配置や周りの環境を設定する。 ・顔写真を使用し、座順をモニターに映しておく。 ・前に注目しづらい児童にTTが「挨拶するよ。」等と言葉かけをする。 ・前に出たい児童を全員呼び、挨拶できたことを褒め、自発的に行うことの意欲に繋げる。 ・電子黒板に、本時の流れ、活動内容、約束事、ペアリングを示して一つずつ確認し、見通しを持って授業に参加できるようにする。 ・文字だけでなく、内容に関連したイラストや写真等も一緒に提示する。	
25分 展 開	○文字数の確認 ・題となるイラストを見て、音の数だけ手を叩いて鳴らす。 ○ひらがなを釣って、友だちと言葉を作ろう！（ペア毎に順番に行う。） ① 動物 ② 予定（時間割） ・それぞれ自分のたらいの中からひらがなカードを釣って、ペアで1つの単語を構成する。	・題となるイラスト（動物、予定）を見て、文字数を確認する。その数だけ手を叩くよう促し、文字数が共有する。 ペア：AF→BD→CE ※児童の手本として活動内容に取り組むことが期待できる。児童が見通しを立てやすい。活動時間の確保。これらの理由から順番は上記とする。 ・自分のたらいの中から文字を探すよう促す。自分のたらいの中の選択肢がなくなったり、ペアの友だちが困っている様子を示したりしていた際は、教員が児童に指さし等で協力をするよう促し、児童同士でやりとりをする場を設定する。	A② B① C② C③

	できた単語をみんなで復唱する。	- 並んでいるひらがなに注目するよう言葉かけをし、たりないひらがなに気付けるようにする。 - 必要に応じて見本の文字を提示し、1文字ずつに注目するよう促す。 - 座っている児童は、友だちの活動に注目するよう促す。メニュー表は、活動への集中を保つことが難しい児童に対して、必要に応じて活用する。 - 教員の口形に注目するよう促しながら、1文字ずつゆっくりと発音し、復唱をする。	
5分 ま と め	○ふり返し ・本時のふり返しをする。 ○挨拶 ・前に出て、挨拶をする。	・ホワイトボードに並んである単語全てを確認できるよう、一つずつ注目を促す。それぞれが頑張ったことを称え、全員で拍手をする。 ・前に注目しづらい児童にTTが「挨拶するよ。」等と言葉かけをする。 ・前に出たい児童を全員呼び、挨拶できたことを褒め、自発的に行うことの意欲に繋げる。	

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

